

令和6年度市立砺波総合病院経営改善委員会の概要について

このほど「市立砺波総合病院経営改善委員会」を開催し、経営状況等の点検及び評価に係る意見聴取を行いましたので公表します。

市立砺波総合病院新改革プラン(計画期間:令和5年度まで)並びに市立砺波総合病院経営強化プラン(計画期間:令和9年度まで)について、この計画に基づく経営状況の点検及び評価のため、市立砺波総合病院経営改善委員会(以下「経営改善委員会」という。)を開催しました。

経営改善委員会は、医療関係者のほか、市民団体、経済界、行政等の様々な専門分野の委員8名で組織し、市立砺波総合病院の経営改善に関する事項等について点検及び評価を行うため設置しています。委員の皆さんは次のとおりです。(敬称略)

要綱に基づく区分	役 職	氏 名	備 考
医療政策に指導的立場に立つ 医療関係者	金沢大学医薬保健研究域 循環器内科学 教授	たかむら まさゆき 高村 雅之	
砺波医療圏における医師又は 看護師等が組織する団体の代 表者	砺波医師会長	あみたに しげき 網谷 茂樹	
市民が組織する団体の代表者	砺波市地区自治振興会協議 会長	ほりた たかし 堀田 隆	
	砺波市母子保健推進員連絡 協議会長	さいとう ゆきえ 齋藤 幸恵	
その他学識経験を有する者	砺波商工会議所会頭	よねほら よしたか 米原 嘉孝	
	税理士	さくらい ひろとし 櫻井 啓年	
行政関係者	富山県砺波厚生センター所長	ながせ ひろふみ 長瀬 博文	
	砺波市副市長	さいとう かずお 齋藤 一夫	

市立砺波総合病院経営改善委員会の概要は次のとおりです。

- (1) 日 時 令和6年11月 5 日(火) 午後4時から午後5時15分まで
- (2) 場 所 市立砺波総合病院 南棟2階 第1会議室
- (3) 出席委員 経営改善委員会 委員8名
- (4) 内容説明

① 令和5年度経営状況について

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に移行し、コロナ禍も収束の兆しが見え始め感染者数は減少したものの感染症対策への対応は継続し、砺波医療圏唯一の感染症指定医療機関として診療体制の確保に努めた。

入院患者数は増加したものの、コロナ禍を契機とした受診動向の変化の影響が続き、外来患者数は減少し、そのような中でも診療プロセスの適正化とDPC係数の向上に向けた取り組みにより入院・外来ともに診療単価は改善したが、新型コロナウイルス感染症患者の受入に伴う病床確保に対する交付金が、昨年より減少したこと等により減収となった。

また、物価の高騰とともに、高額薬剤の適用拡大により経費や材料費が増加、退職手当引当金の開始に伴う給与費の増加も加わり、費用全体で前年度に比べ増加し、病院全体としては支出が収入を上回る結果となり、赤字決算となった。

② 令和6年度(上半期)経営状況について

令和6年度上半期の経常収支は黒字となっているが、入院収益、外来収益ともに前年度より低下し、国・県補助金が減少したため収益は減収しており、一方で、給与改定による給与費の増加や物価高騰による材料費の増加、人件費の上昇に伴う委託料の増加等により経費が増加していることから、収支差引額については前年同期を下回る状況である。

③ 市立砺波総合病院新改革プランの数値目標と取り組みの達成状況について

新型コロナウイルス感染症後の影響を受けたことにより、病床稼働率など目標未達成の項目があるものの、紹介率・逆紹介率や診療単価などの目標は達成となった。

引き続き達成に向けた取り組みを進める。

(5) 質疑応答及び意見

Q1: 患者が減っているということについては人口減少だけがその理由ではないと思うがこの要因については何か特別なものが今年はあるか

A1: コロナ禍をきっかけに在宅医療の患者が増加し、受診を控えるという流れが加速していること、さらには紹介患者以外にかかる選定療養費が増額されたことも一つの要因ではないかと考えられる。

Q2: 昨年に比べて外来の紹介率と逆紹介率というのがどのくらい変化しているか

A2: 紹介率、逆紹介率は、紹介率 80% 逆紹介率は 100% に近い間で推移しており率を維持している。役割の明確化と効率化という観点で、地域医療支援病院の承認要件である紹介率 50%、逆紹介率 70% の数値目標を上回っており問題ないと考えられる。

Q3:コロナ禍から病院の入り口に検温器が今も設置されており体温を計測しているが、体温が正常でない状態ではどのような影響があるのか

A3:病院に入られる患者に発熱があった場合は発熱外来へ誘導して検査をしている。

現在、5類になり1年以上経過しているが、新型コロナウイルスは、インフルエンザよりも死亡率が高く、特に悪性疾患を持つ患者には危険度が高く、また当院は外来での化学療法を必要とする患者も多いため、院内で感染症が広がらないように対策として体温を確認し、発熱がある場合は感染症の検査等確認が必要であるため現在も設置している。

意見:

- ① 地域の中核病院であり、市民が誇れる病院としてサービス面等患者との向き合い方について病院全体での再確認を望む意見があった。
- ② 高齢化が進むなか、自家用車や公共交通機関等での通院が困難な患者へ、決まった時間に束縛されずに通院しやすい「チョイソコとなみ」等の利用を推奨する意見があった。
※「チョイソコとなみ」とは、利用者の目的地に合わせて複数で乗り合わせて移動するサービス
- ③ 高度医療に伴う高額医療機器等の購入について、国等へ支援の働きかけが必要であるとの意見があった。
- ④ 経営状況について、ランニングコストの見直しを行いながら、人員不足問題についても職員の健康管理、健康増進に取り組み、生産性を低下させない「健康経営」を推奨する意見があった。